

○目的：子どもたち一人ひとりが自らの強みを知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの社会を生き抜く力を着実につける。

○実施日：令和5年4月17日～25日 ※期間内で学校が実施日を決定

○対象：小学校、義務教育学校前期課程及び支援学校小学部の第5・6学年

○実施児童数 5年生：66,514人  
6年生：67,329人 合計：133,843人

○内容：5年生：国語、算数、理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート  
6年生：理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート

○児童への資料「ウォッチシート（個人票）」の提供

【記載内容】

- ・アンケート結果からわかる児童一人ひとりのよいところ
- ・各教科とわくわく問題（教科横断型問題）の解答状況から見られる、児童一人ひとりのよいところ
- ・各教科とわくわく問題（教科横断型問題）のすべての問題について、児童一人ひとりの正答状況とそれに合わせたアドバイス

### 【わくわく問題（教科横断型問題）】 小学校5・6年実施

分類	区分	平均正答率 (%)
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	80.0
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	56.9
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	75.4
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	68.6
	E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	89.5
出題内容	問題をとらえる	77.3
	伝える	71.0
	文章から読み取る	77.3
	会話から読み取る	73.9
	図や表から読み取る	66.8
	資料の情報を整理して伝える	64.4
	自身で考えたことを伝える	78.7
	理由や根拠を明確にして伝える	71.0

#### 良好

- 1つの資料から内容を読み取り、その内容を示したイラストとして適切なものを選ぶこと
- 機械の動きの組み合わせから、規則性を見出すこと
- 自由な発想で自分の考えや思いをかくこと

#### 課題

- 複数の資料の内容を適切に読み取り、考えたことを条件に従って表現すること
- 複数の情報を関連付けて考えをまとめること
- 情報を観点ごとに分類する時、共通するところをみつけ、適切な言葉でまとめること

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★表やグラフを見るときは、何について表した資料なのか考え、特徴的なところに印をつけたり、その資料からわかることを文に書き表してみましょう。
- ★情報を分類するとき、共通することやちがいが何かを見つけるようにしましょう。また共通することをグループに分け、標題をつけてみましょう。
- ★自分の考えを伝えるときは、なぜそう考えたかという理由や根拠となる事柄を明らかにして、伝えるようにしましょう。
- ★まずは自分の好きなことからかまいません。「気になるな」と思ったことについて、本やインターネットで調べたり、周りの人に聞いたりして、興味や関心を広げていきましょう。

### 【国語】 小学校5年実施

分類	区分	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	80.8
	(2) 情報の扱い方に関する事項	62.8
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	64.4
評価の観点	知識・技能	78.3
	話すこと・聞くこと	-
	書くこと	82.4
	読むこと	-

文中の助詞を正しく使うことや、文を読み指示語の示す内容をとらえることはよくできていた。

一方、文と文の意味のつながりを考えながら、適切な接続表現を使って一文に書くことや、文の構造や関係を理解することに課題が見られた。

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★接続語を正しく使うことで、文と文の意味がどうつながるのか、相手に伝わりやすい文章を書くことができます。使える接続語を増やしましょう。
- ★文章の内容を要約してみたり、他の言葉や表現で書き換えたりして語彙や表現を豊かにしていきましょう。

### 【算数】 小学校5年実施

分類	区分	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域	数と計算	39.5
	図形	39.9
	測定／変化と関係	26.7
	データの活用	24.4
評価の観点	知識・技能	48.0
	思考・判断・表現	11.1

計算などの知識・技能に関わる基礎的な問題についてはできていた。

一方、2種類のグラフから正しく情報を読み取ることや、読み取った情報から数量を求め、その理由を言葉や式を使って説明することに課題が見られた。

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★グラフが何を表しているのか、理解したうえで、表している数や量などのデータを読み取るようにしましょう。
- ★数量の求め方を説明するときには、相手に伝わるように、自分がどのような順序で考えたのか具体的な数値を使うなどして書くようにしましょう。

### 【理科】 小学校5・6年実施

※大問2問のうち1問は5・6年共通。1問は別問題を実施。

(5年)

分類	区分	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域	エネルギー	69.9
	粒子	-
	生命	57.2
	地球	-
評価の観点	知識・技能	57.6
	思考・判断・表現	73.2

(6年)

分類	区分	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域	エネルギー	72.8
	粒子	-
	生命	-
	地球	73.3
評価の観点	知識・技能	74.4
	思考・判断・表現	69.9

5・6年ともにとじこめられた空気の状態についてはできていた。  
一方、5・6年ともに電池のつなぎ方に関する用語とその特徴を正しく理解することや観察器具の使い方に関する知識に課題がある。また、観察や実験結果をもとに考察を行い、考えを理由とともに記述することに課題が見られた。

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★観察等を行うとき、使用する器具は何のために、どのように使うものなのか、確認しましょう。
- ★興味を持ったことについて、観察や実験を行う前には、仮説を立てやり方を考えたうえで実施し、結果の考察を行いましょう。

# 令和5年度小学生すくすくウオッチ結果概要 ～アンケート～

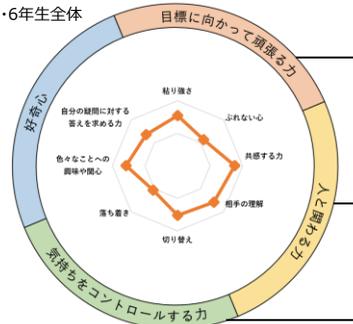
## 「未来に向かう力」と「好奇心」について

子どもの将来には、テスト等で測ることのできる「学力」の他に、非認知能力が大事です。非認知能力について、大阪府教育庁では、「目標に向かって頑張る力」、「人と関わる力」、「気持ちをコントロールする力」の3つとし「未来に向かう力」(※)として定義しました。また、新たな知識や経験を探究する原動力となる「好奇心」も大事と考え、アンケートによりその状況もたずねました。大阪の子どもの全体の傾向として、「未来に向かう力」のうち、「人と関わる力」が他の力に比べて高いという結果でした。一方、「目標に向かって頑張る力」のうちの「ぶれない心」や、「気持ちをコントロールする力」のうちの「落ち着き」が、他の観点に比べると、低い傾向であるという結果でした。

また、「好奇心」のうち、「いろいろなことへの興味や関心」は「自分の疑問に対する答えを求める力」と比べて高いという結果でした。

※参考※(※)『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』リーフレット ダウンロードページ  
<https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/17339/00355268/hinintitanpe-ji.pdf>

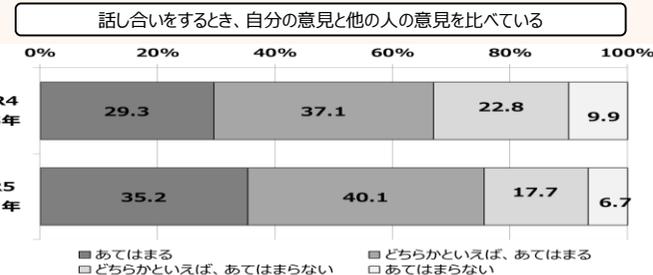
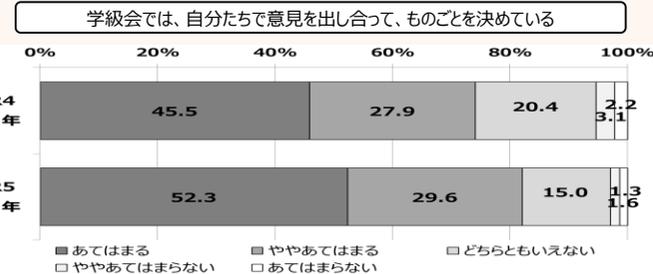
5・6年生全体



未来に向かう力

## 今年度の6年生と昨年度(5年生時)との同一集団の経年比較

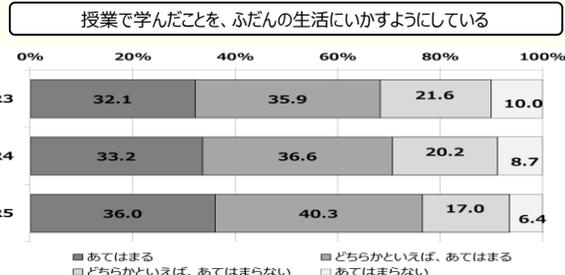
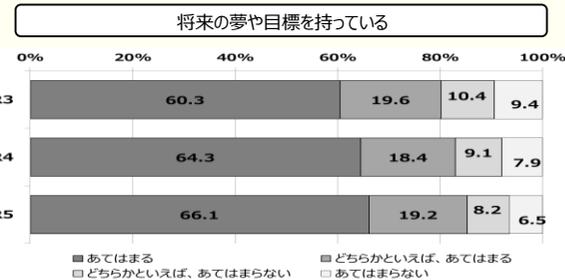
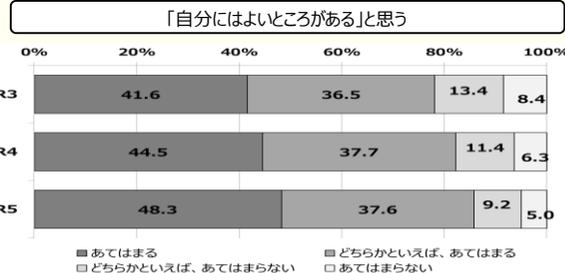
※その他・無回答の数値は示していません



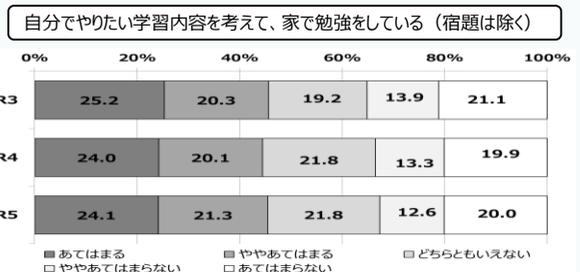
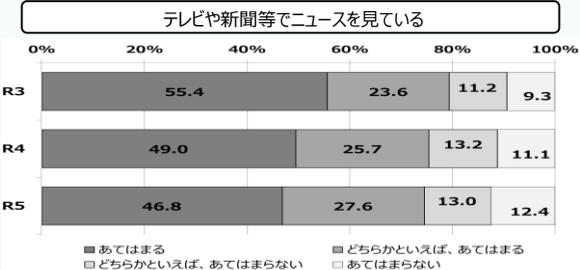
## 児童アンケート(5・6年生) 令和3年度から3年間の経年比較

※その他・無回答の数値は示していません

### 〔肯定的な回答の割合が増加した項目〕



### 〔課題と考えられる項目〕



児童アンケートから、「自分にはよいところがある」と思う子どもや「将来の夢や目標を持っている」という子どもの割合がこの3年間で増えてきていることがわかりました。これらは、学習に前向きに取り組む力を下支えし、少し難しいことにもチャレンジすることを後押しする力にもなります。また、「授業で学んだことをふだんの生活にいかすようにしている」子どもの割合も増加傾向にあります。既習事項をふだんの生活に生かす習慣が身に付いていけば、未知の状況にも力を発揮し考えて対応できるようになります。

一方で、本を全く読まない、テレビや新聞でニュースを見ていない児童の割合が増加していることは課題と捉えています。本を読むことにより、知識や語彙、感性が豊かになります。そして、ニュースを見ることは、身の回りや世の中で起こっているさまざまな事柄について知るきっかけになります。読書やニュースを見ることを通して、自分の好きなことや身近なこと、社会で起こっていることなどに興味をもって、自分の視野を広げていきましょう。また、学校の授業で学んだことをその日のうちにもう一度ノートにまとめてみるなど、宿題以外にも自分で課題を考えて取り組むようにしましょう。

今年度の6年生の回答と昨年度5年生だった時の回答とを比べると、「学級会で自分たちで意見を出し合って、ものごとを決めている」、「話し合いをするとき、自分の意見と他の人の意見を比べている」という回答の割合が大きく増加しており、学習も普段の生活も対話から学ぶ姿勢が身に付いてきていると考えられます。

- 今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。
- すくすくウオッチの問題および解答については、以下のURLよりご覧いただけます。  
 ○ 令和5年度すくすくウオッチ [https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/sukusuku/r5\\_monndai.html](https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/sukusuku/r5_monndai.html)